

## 「解答・解答例等」「出題の意図」

選抜区分	2026年度（選抜区分：学校推薦型選抜） 文学部 人間関係学科（科目名：小論文）
<p><b>1. 出題の背景・求める能力</b></p> <p>急速に発展し普及する生成 AI 技術に、私たち人はどのように向き合っていくべきか、これからの大学での学びはどうあるべきかを、出題あたっての主題とした。</p> <p>これらの新しい技術は、情報を求め答えを探すためのツールとしてはきわめて効率的であるが、自分から問いを立てることはできない。1つめの英文では、これからの人間の学びにとっては、「問いとはなにか」を考えることが重要となると述べられている。こうしたメタレベルの視点は、2つめの日本文である「知識についての知識」は共通するものである。</p> <p>このふたつの課題文の論旨を踏まえたうえで、受験生には自ら問いをたて、それに答えるという形式で小論文を課した。</p> <p>ここではより深い考察のゴールに到達するために役立つような適切な問いの立て方が求められる。</p> <p>また、その問いに対する答えも、単に賛否や自分の意見をのべるだけでは不十分で、自分が立てた問いに対して、解答としての妥当性、論旨の具体性や論理性が評価の対象となっている。</p> <p><b>2. 解説(解法)</b></p> <p><b>問1 下線部①にある「問いの真の可能性」とはなにか述べなさい。(40点)</b></p> <p>課題文の以下の部分にふれて述べられていること。</p> <p>「問いは私たちの会話を通して好奇心を駆り立て、焦点を明確にする。私たちが発見したり、コミュニケーションをとったり、気遣いを示したり、自分自身を表現したり、他者に挑戦したり、議論したり、インスピレーションを与えたり、時には世間話をするのにも役立つ。」</p> <p>「個人にとっても社会にとっても不可欠なツールであり、正しい決断を下すために必要な情報を探し出し、それにアクセスするための手段でもある。」</p> <p>設問についてはおおむね理解できていたが、本文の記載の一部しかふれられていないものが多く、論述の濃淡で点数に差がついた。</p> <p><b>問2 下線部②にある「問いは答えのために存在するのではない」とはどういう意味なのかを説明しなさい。(40点)</b></p> <p>本文の以下の部分が説明できていることがもとめられる。本文最後の段落が読み取れていれば解答することができる。</p> <p>「すべての問いにきちんとした答えが用意されているわけではない。返事を期待せずにする問いもある。答えがまったくないものもある。」</p> <p>問1と問2は、問3の小論文を書くために必要な情報を確認するために設けられていることが多い。したがって問1と問2をきちんと解答しておくことが最終的に小論文を書く上で重要である。</p> <p>全体的に下線部を訳せておらず、脚注の訳をつないだようなものが多かった。一方で段落の内容をしっかりと読みとれている回答も複数あり、正確な訳はできなくても内容を読解できる程度の英語力は必要である。</p>	

問3 [文章1]と[文章2]の内容をもとに、「これからの私たち人間の学びと生成AIとの関係」を考える上で有効になる一つの「問い」あるいは「仮説」を立てなさい。その上で、事例や根拠を示しながら自分が立てた問いに答えなさい。問いと答えを合わせて800字以内。議論や考察の過程を評価するので、必ずしも明確な結論にいたらなくてもかまわない。(120点)

本文の内容をよく理解し、課題を考える上で有効な問いとなっているかどうかを評価する。簡単に答えが出てしまう問いや、当たり前のことを示すだけの問いではなかなか論が深まらない。人間と生成AIの両者を対比し、相違点や矛盾などを示すことができるような問いをたてると後半の論述も書きやすいだろう。

#### 【問いの例】

「生成AIの時代に人間はなにを学ぶべきか」「人間にできて生成AIにできないことはなにか、あるいはその逆はなにか」「私たち人間の仕事は生成AIの発達によってどう変わるか」「生成AIを人間の教育や学びにどのように活用するか」「生成AIによって私たちは賢くなるのか愚かになるのか」「もし生成AIがあればもう学校はいらないのか」「生成AIは学習意欲にどのような影響を与えるか」

その上で、それに対する考えが、事例や根拠をもとに論理的に述べられているかどうかを評価される。生成AIと人間との違いについていえば、たとえば、実体験、寿命、身体、自発性、意識、感情などのキーワードが上げられるだろう。

問いに明記されているように、議論や考察の過程を評価するので結論はあっても良いし、なくても良い。自分が何を知っていて、何を知らないのかについての「俯瞰図」をもとに、自分が立てた問いに対する考察にいたる道筋がきちんと示されていることが評価において重要である。

また可否や自分の意見を論じる解答が散見されたが、これらは必ずしも求められていない。単に自分の視点や経験を書くだけで、多角的な視点を示すことができていないために議論や考察が不十分な解答は、高い評価を得られなかった。そもそも必要な仮説や問いを立てられていないものや、その問いに対して適切な論述ができていないもの、具体的な事例などの論の根拠を示しておらず説得力に欠ける解答なども得点は難しい。